

真宗高田派専修寺北海道別院歴史

歴代輪番



 第1代輪番 明見 法泉 福井県 越前市 開教寺	 第2代輪番 原 宗光 三重県 桑名市 開教寺	 第3代輪番 山川 真源 三重県 津市 開教寺		
 第4代輪番 三浦 智憲 福井県 三國町 開教寺	 第5代輪番 井上 隆徳 三重県 津市 開教寺	 第6代輪番 加藤 英陽 北海道 小樽市 浄光寺	 第7代輪番 物 主清 福井県 小浜町 浄光寺	 第8代輪番 千原 寿隆 三重県 津市 浄光寺
 第9代輪番 井上 隆徳 三重県 津市 浄光寺	 第10代輪番 三浦 智憲 福井県 三國町 開教寺	 第11代輪番 加藤 智春 福井県 小浜町 浄光寺	 第12代輪番 山本 元理 北海道 小樽市 浄光寺	 第13代輪番 高島 親海 北海道 札幌市 開教寺
 第14代輪番 藤 岡道 北海道 札幌市 開教寺	 第15代輪番 加藤 英陽 北海道 小樽市 浄光寺	 第16代輪番 加藤 英陽 北海道 小樽市 浄光寺	 第17代輪番 加藤 英陽 北海道 小樽市 浄光寺	 第18代輪番 山川 真源 三重県 津市 浄光寺
 第19代輪番 加藤 英陽 北海道 小樽市 浄光寺	 第20代輪番 加藤 英陽 北海道 小樽市 浄光寺	 第21代輪番 加藤 英陽 北海道 小樽市 浄光寺	 第22代輪番 加藤 英陽 北海道 小樽市 浄光寺	 第23代輪番 加藤 英陽 北海道 小樽市 浄光寺
 第24代輪番 加藤 英陽 北海道 小樽市 浄光寺	 第25代輪番 加藤 英陽 北海道 小樽市 浄光寺	 第26代輪番 加藤 英陽 北海道 小樽市 浄光寺	 第27代輪番 加藤 英陽 北海道 小樽市 浄光寺	 第28代輪番 加藤 英陽 北海道 小樽市 浄光寺

真宗高田派専修寺北海道別院は、明治25年、福井県鮎川、願生寺住職出見法泉師、同県風尾、勝曼寺住職長井真応師北海道開教の山命により来道し、札幌市南1条東3丁目に、説教場を創設し、同年6月開教の式を挙げ、開教この日から始まり、翌26年9月南2条東3丁目に教場を移す。明治33年12月、南部源蔵氏は南4条東4丁目宅地1087㎡を別院境内地として寄進する。明治35年2月、真宗高田派専修寺札幌別院と公称許可され、別院の基礎が定まる。

同年3月22日、本堂新築工事の入札が行われて、棟梁坂口佐太郎に落札して着工し、8月12、13日基礎地形搦、毎日男女五〇〇人余のお手伝を受ける。輪番山川真源師は、篤信家谷川重左エ門等と募財に奔走し、本山より御下附金六〇〇円を賜って、明治36年3月木造入母屋造り110坪の本堂竣工落成する、明治41年3月宮殿、須弥壇、開山厨司など新調、同年8月、開山大師木像安置 高橋七五郎、梶原せいの寄附。昭和28年8月、本郷氏は南4条東四丁目、宅地684㎡を境内地として寄附される。開教の錫を留め心田開拓に点灯されて120年余り、専修念仏弘通してお念仏の声いよいよ盛になる。

本堂建立されて満九十年、風雪に耐えし建物も老朽化甚だしく、加えて境内地狭隘のため、開教百年記念事業として、移転再建することになりました。

幸にして市内清田区平岡3条3丁目25の10、境内地3,000坪を取得することが出来て、平成1年8月、設計、管理を髙山下設計に委託

平成2年6月、寺社建築に定評ある松井建設(株)札幌支店と工事契約し、定礎法要を勤修し着工する。境内地は市内としては高台の平岡地区、周囲は住宅、市の樹芸センターに囲まれた閑静な処で、唐破風造りの山門をくぐると正面に間口21.6m、奥行21.6m、高さ19mの唐破風入母屋造り銅板葺、内装は極彩色仕上げの本堂、左手に客殿、庫裡、1015㎡、右手に納骨堂、教化会館、山門左に鐘楼堂を配し、荘厳なたたずまいを見せています。

